

宇陀松山会館（大宇陀拾生）



古い町並みが残る宇陀松山重要伝統的建造物群保存地区にある宇陀松山会館は明治36（1903）年に旧松山町役場として建築された和洋折衷の歴史ある建物です。

大正元（1912）年まで施設の一区画を松山実業補習学校裁縫部が使用していました。町役場が大宇陀中新にあった旧郡役所へ移転した後は、県営宇陀地方松山公営所（県土木事務所）が建物を使用しました。土木事務所移転後は職業安定所や福祉事務所などの用途を経て大宇陀福祉会館として使用されました。

令和2年3月、建物をリニューアルし宇

【開館時間】
午前10時～午後4時
火・水・木曜休館
(祝日開館、翌日休館)



▶花ノ木橋から見る建物裏側も趣があります



陀松山会館としてオープン。現在は宇陀松山まちづくり協議会の皆さんの管理により施設内で宇陀松山城の出土品など宇陀松山の歴史資料が展示され、会議室など貸館としても運営されています。

様々な用途で利用されながら外観を変えずに今も歴史的町並みに溶け込む宇陀松山会館。一度訪れてみてはいかがでしょうか。

今日の
Pick Up

いにしえ万葉人の美しき暁口マンを体感 第50回 かぎろひを観る会



ひむがしの野に
かぎろひの立つ見えて
かへり見すれば
月かたぶきぬ

柿本人麻呂

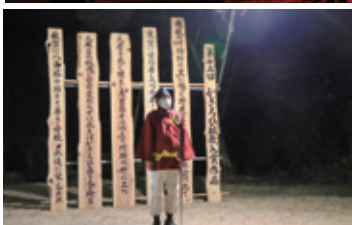
2月11日（金・祝）早朝、かぎろひの丘万葉公園（大宇陀中庄）で第50回を迎える「かぎろひを観る会」が開催されました。

この日は凍てつく寒さと好天に恵まれ、かぎろひへの期待は高まります。かぎろひが現れる日の出の1時間前には山の稜線に雲がかかってしまいましたが、ほんのりと赤く色づく東の空を観ることができ、参加者の皆さんは、ここ数年で一番よく観ることができたと言っておられました。

従来は、柿本人麻呂が歌を詠んだとされる旧暦の11月17日（令和3年12月20日）に開催されていますが、今回から、より寒さが増して現れやすくなるこの時期にも開催されることになりました。



▲焚き火を囲んで東の空を観ました



▲かぎろひ短歌優秀作品の前で挨拶する市長